



「スポーツ共和国・広島」プロジェクトの提案

広島県経済財政会議

平成22年6月25日

大和総研 公共政策研究所 宇野 健司



基本コンセプト スポーツは広島県の宝

広島はもともとスポーツが強い

～ 広島カープ、サンフレッチェ広島、中国電力陸上部、
高校野球、高校サッカー、高校駅伝

プロジェクト提案

草の根的な 「スポーツ共和国・広島」



メリット

- スポーツで他県と差別化している事例はまだなく、
全国の先駆けとして「スポーツ」を通じたブランドイメージを発揮できる。
- 最も士気が上がり、帰属意識が高まるのはスポーツ(例:W杯サッカー)
- 強化する競技を絞り、良い指導者を引っ張ってきて、組織的かつ計画的に育成すれば、必ず強くなる。
(例:オランダは人口1600万人、デンマークは500万人だが、W杯サッカーでは強国)
- スポーツ振興は、相対的に予算がかからず、効果大きい。
(場合によっては、ミニ公募債やふるさと納税などでその財源をスポーツ振興に使うと明言してもよい)



「スポーツ共和国・広島」への取組み

- ◇ 組織的な強化に向けて、プロジェクトチームや部署を設置し、
外部から民間人を登用する
(その民間人のコネクションなども利用して、良い指導者やスタッフを引っ張ってくる)
- ◇ 県下の市町や、中国電力、マツダ、広島銀行など地元有力企業とも連携
- ◇ 10年計画など、総合的・具体的なプランをパッケージとして策定



個別のアイデア

- 県立広島大学にスポーツ科学学科を設置
(スポーツメーカーなどからの寄附講座を検討するのも、一つの方法)
- Jリーグと提携して、Jヴィレッジ(福島県双葉郡)の西日本での拠点を誘致
- 「スポーツ共和国・広島」のロゴやキャラクターを作成(公募or有名コピーライターに依頼)
- イチローなどが使っている有名トレーニング施設(ワールドウイング)など、スポーツ関連拠点を誘致し、広島をスポーツビジネスの一大集積地にする(例:シリコンバレー)
- 地元のクラブチームやボランティアの活用など、民間人・民間団体の力を柔軟に取り入れる(適切な指導者がいない学校は、外部の良い指導者の指導を受けやすくする、など)



プロジェクト効果

- スポーツが盛んになれば、人口増加や出生率のアップにもつながる？
- 知事がリーダーシップをとり「スポーツ共和国・広島」を宣言し、ビジョンを語れば、メディア効果も高い。

(例:宮崎県の東国原知事や大阪府の橋下知事のイメージ)

- 何よりも、みんながワクワクし、前向きな気持ちになる！